



「持続可能性・循環経済」指標可視化 に関するBASFの取り組み

第4回資源循環経済小委員会にて

BASFジャパン(株)
経営推進本部 サステナビリティ推進部
山口 拓也

2024年1月25日

Agenda



「持続可能性・循環経済」指標可視化に関するBASFの取り組み

1. WBCSD WGでのBASFでの活動
2. 製品の持続可能性評価と企業での循環経済指標
3. CSRD報告開始に伴うESRSに基づく報告準備
4. 報告準備プロセス
5. BASFが日本国内でのサーキュラーエコノミー実装のために望むこと

1.WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）WGでのBASFの活動

BASF SEはWBCSDの2つのワーキンググループにて他の企業様と取り組む。

名称	分野
Product Sustainability Assessment (PSA)	製品の持続可能性の評価
Circular Transition Index (CTI)*	企業における循環経済への取り組みの可視化

*CTIについては日本語によるガイダンスがVersion 4として公表されている。
CTI WGには日本企業として、富士通様と本田技研工業様が参加

2. 製品の持続可能性評価と企業での循環経済指標

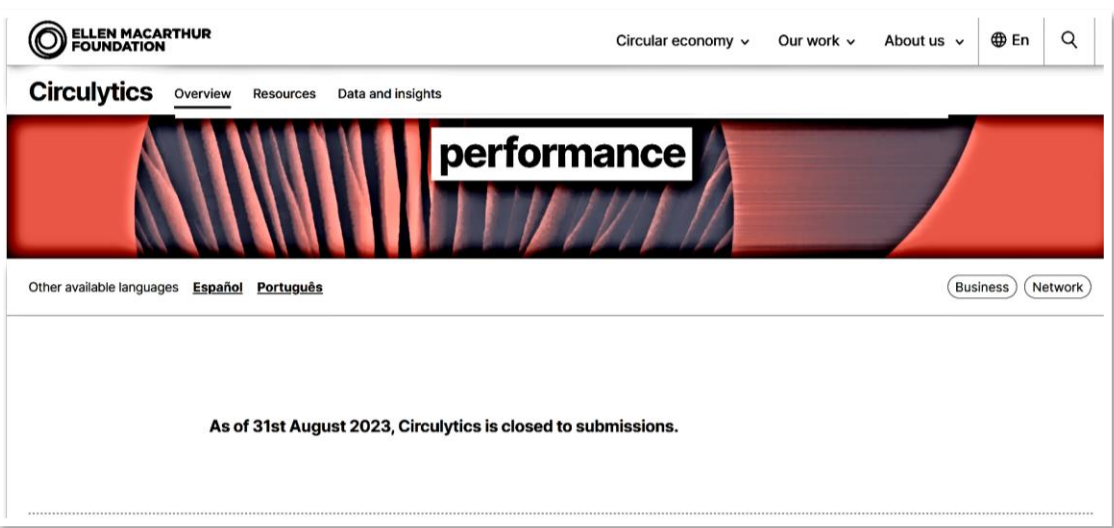
製品の持続可能性評価

TripleSは、サステナビリティの三つの軸を反映

Environmental protection	Social engagement	Economical growth
		
Sustainability Categories		
- Resource efficiency - Climate change & Energy - Circular economy トランスフォーメーション テーマ	- Water protection - Pollution reduction (air, soil, noise) - Biodiversity	- Health & Safety - Zero hunger & poverty - Cost savings downstream¹ ¹ If a solution contributes exclusively to the sustainability category "cost savings downstream", the solution shall be categorized as a "Standard"

BASFでは自社のブランド名 “Triple S” として取り組み、PSAとの整合性を取り、製品の循環経済への貢献もカウント

企業での循環経済指標



BASFではCTI WG以前からエレンマッカーサ財団とCirculytics*として取り組む
CSRDの報告義務化に伴い、ESRSに基づき報告を準備中

*quotation;
<https://www.ellenmacarthurfoundation.org/resources/circulytics/overview>

2. 製品の持続可能性評価と企業での循環経済指標

Circulytics Indicator*1

Circulytics is no longer open for submissions.
These resources are for reference only.

Circulytics® | Indicators 4

Basic company information

WHOLE COMPANY

Oa.

Which financial reporting year is the company information provided relevant for?*

The selection should be based on the financial year **end date**.

WHOLE COMPANY

Ob.

Company name*

WHOLE COMPANY

Oc.

Which scope are you reporting on?*

Circulytics Indicator; 質問回答形式
選択による回答項目もあり

*1 quotation; <https://emf.thirdlight.com/link/1pzbxsbi6hl-ei3tq6/@/#id=0>

Circulytics Indicator to ESRS E5 *2

Airtable

Download CSV View larger version

E5 - Resource use and the Circular Economy to Circulytics

Hide fields Filter Grouped by 1 field IT Sort DI ...

Part

ESRS - Corporate Sustainability Reporting Disclosure copy

Circulytics

Degr

GROUPING		Count		
E5-1: Policies related to resource use and circular		2		
1	The objective of this Disclosure Requirement is to enable an understanding of the extent to which the undertaking has policies that address the identification, assessment, management and/or remediation of its material impacts, risks and opportunities related to resource use and circular economy.	(15) In the summary, the undertaking shall indicate whether and how its policies address the following matters where material: (a) transitioning away from use of virgin resources, including relative increases in use of secondary (recycled) resources; (b) sustainable sourcing and use of renewable resources.	No equivalent indicator in Circulytics	Not
2		(16) Policies shall address material impacts, risks and opportunities in its own operations and along the upstream and downstream value chain.	No equivalent indicator in Circulytics	Not

ESRSへの移行に伴い,Circulytics Indicatorと
ESRS E5の重複度合いを3段階で表示
移行に伴い、重複度合いを参考

*2 quotation; <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/circulytics-esrs>

3. CSRD報告開始に伴うESRSに基づく報告準備

ESRS導入の影響と課題

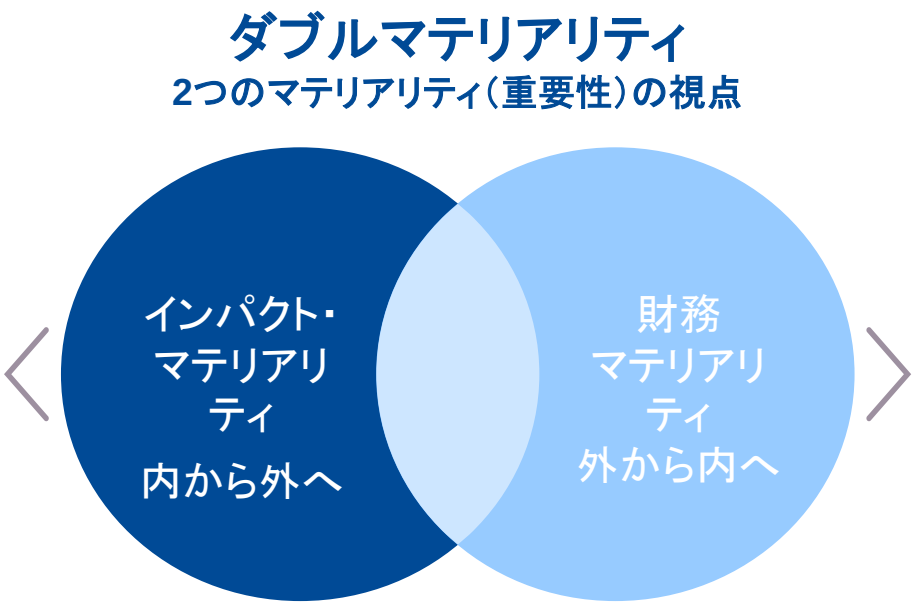
インパクトマテリアリティ - 実績 または潜在性

次の場合、持続可能性重要となります。

- BASFにとって、人や環境(環境、社会、ガバナンスの問題)において重大かつ、現実または潜在的なものであり、プラスまたはマイナスの影響を与える場合
- (インパクトが)短期、中期、長期にわたる場合

事業によって引き起こされる、または助長されるインパクトや取引関係を通じて、BASFの活動・製品、サービスに直接影響するインパクトを含む。

例:GHG排出量



サステナビリティの問題は、インパクト・マテリアリティ、財務マテリアリティの片方または両方で定義された基準を満たす場合に「重要」となります

影響を受けるすべてのステークホルダー

→ 個人+投資家+ビジネスパートナー+NGOへの影響を考慮...

財務マテリアリティ 将来性

サステナビリティの問題は、次のようなBASFに重大な財務的影響をもたらすまたは可能性がある場合重要になります。

- 事業のキャッシュフロー、開発、業績、地位、資本コスト、または資金調達へのアクセスに重大な影響を与える(または重大な影響を与える可能性が高い)リスクまたは機会が生じ、またはその可能性がある場合
- (影響が)短期、中期、長期にわたる場合

例:カーボンプライシングの仕組みによる効果など、GHG排出量が事業の将来のキャッシュフローに及ぼす影響の評価

4. 報告準備プロセス

ギャップ分析

- 2022年12月、EFRAGが発行するESRSドラフト規格に基づき開始
- 定性的/定量的要件: トピック固有のギャップ、粒度のギャップ、保証のギャップの特定
- 特定されたギャップは、プロセスの調整と設定のために、責任の分散化(トピックリーダー)の必要性を示している。

ディープダイブセッション

- 2023年3月には、すべてのトピック特有の要件と一般的な要件に対応する専門家チームによる個別のセッションを実施
- 第1次ギャップ分析で特定されたギャップの再評価
- 全体的な定義が明確でないと、必要なリソースの時間を見積もることが困難
- 最も差し迫ったトピックについて、将来の監査員候補者と早期に議論するきっかけとする。

パルスチェックミーティング

- 専門家チームとの月次ミーティング
- 8月末に初会合が開始、最終のESRS規格が公開
- 特定のトピックごとにトピックリーダーを指名(責任の明確化)
- 次のステップ、主な課題と対処方法、監査員との話し合いのポイント/対等な関係者との情報交換に関する議論
- 報告準備のフォローアップ

継続的なタスク:

- 監査員候補者との情報交換
- 基準設定/規制動向のモニタリング
- 業界団体との交流、要件を明確にするためのネットワーク
- BASF Sustainability Reporting & Controlling などを通じた社内コミュニケーション/意思決定

5. BASFが日本国内でのサーキュラーエコノミー実装のために望むこと

1. 欧州は多少価格が高くてもCE製品を購入してもらえる土壌があるが日本には存在しないので税制面で最終商品レベルでのCE製品と従来品の価格差を0にするようなインセンティブを希望
2. 日本でCE製品の購入意欲を醸成するために、CEに関する教育が義務教育の若年層とリタイア後の高齢者層から挟み撃ちが必要
3. ブランドオーナーとのサーキュラーエコノミー製品の価値観の目線合わせを行い、企業間で取り組むのと同時にコミュニケーションの結果を政府・各省庁で政策・法令に反映していただくための枠組みを希望

BASFジャパンはブランドオーナー様とのサーキュラーエコノミー実装に向けたコミュニケーションを開始
上記1の税制インセンティブに対する希望をブランドオーナーに率直にお伝えし、概ね賛同いただいた。

(BASF社のお取引関係のトイレタリー会社様より)

素材を提供する側と素材を採用する側からの一致した意見から政策実現は不可欠



We create chemistry